

# 奈良史樹氏 一九七〇年代 楽器業界での 人生を語る



当時を語る奈良氏。

まだ寒さの残る 2012 年 4 月 1970 年代のグレコを語る上で外せない人物“奈良史樹”氏にご自宅でインタビューする機会を得ました。奈良氏といえば、Greco MR の企画開発をした人物としてつとに有名。7 月にリリースされた MRn をプロデュースされたのは記憶に新しいところですが、神田商会でご活躍されていた頃からすでに 30～40 年の時が経過しました。その在籍期間中に手掛けた数多くの功績やエピソードはあまり語られていません。松本のギター産業にも大きく関わられたご本人、そして関係のあった人々、それらにまつわるエピソードを残しておきたい…そんな思いから病氣療養中にもかかわらず、20 代にして楽器業界を全力で駆け抜けた 1970 年代の大変貴重なお話を聞かせていただきました。奈良氏のご希望もあり、これはその時の様子を記録したものです。インタビュー形式とすることでお人柄がよく分かる内容となっています。

対談及びインタビュー：横内照治氏、TAD 館長とは JV 誌の先輩であり有数のグレコ研究者 S 氏、TAD 館長尚、このインタビューはお会いした 2012.4 のものです。奈良氏は 2015.1.31 に御逝去されました。氏の遺言どおり、お亡くなりになってからの公開としました。生前は大変お世話になりました。心より御冥福をお祈りいたします。

## 奈良史樹 Nara Fumiki 1951-2015

1971 YAMAHA / GYM Design, Planner, and other  
1972-1979 KANDA SHOKAI Design, Planner, and other  
1982 Two-tone graphics Ltd. Fender Japan Design and Public information  
1985 Two-tone club Co., Ltd. Ikebe, Maxon, TUNE, Sadousky, SWR, John Subr and more Design and Public information.  
2012 Greco MRn-140R Produce

1971

奈良氏の恩師、椎野氏が存在がヤマハ時代から神田商会まで、すべての始まりだった。

椎野さんの話をすると凄いよ。椎野さんが一番凄い。あと僕らなんか…(笑)

椎野さん経由で小嶋さんから広告の話が来て、僕なんか椎野さんの子分みたいなもんだからへいへいって。

その頃、ヤマハで全国のショップで埋もれているミュージシャンをあつめて運動して、そういうのやりましようって計画を練ってたんです。それでたまたま僕が森君(森泰人氏)って友人のジャズ・ベーシストの彼から、椎野さんという人がヤマハ銀座店にいるから一緒に行かないか?と行われたんで行ったの。椎野さんにバンド活動をやってることや、デザインをやってることなどの経歴を話したら、ヤマハの囑託で企画をやってみないか?と誘われた。僕は人が2つくらい言えば8個くらいにふくらませることができるタイプだった、また体が大きいから印象に残るんです。そんなやつが何か言えば目立つ。人と話すときはいろいろ図にしたり絵にしちゃうんですよ。

その当時も何をしたかという、ヤマハのショーウィンドウがあるんですよ。ヤマハではいろんなことをやらせてもらったけど、印象に残っているのは、銀座通りに面したショーウィンドウがあり、非常につまらないものだったんですよ。そこを若者の部屋にしてみるというアイデアを出した。また店の正面に“ビバルディの四季”の宣伝があったんですが、それをミュージックツリーにして音楽の相関図にしてみたらどうか?と。それがバカ当たりしたんですよ。それを皆見に来て。そのイラストは森君の友人で慶応の山田敦朗くんが描いた。

1972

## ●神田商会との接点 (フジゲン 70 年代の軌跡より抜粋)

奈良氏と Greco との出会いは、ヤマハ銀座店に椎野氏という凄腕がいて、その下で彼の手下になって活動しているデカイ男(奈良氏)がいる…という鈴木政行(小嶋氏の実弟で当時神田商会営業部長・銀座エリア担当)の話に興味を持った当時の鈴木部長(後の小嶋社長)から、グレコの広告を頼まれたのがきっかけだった。

ギャラをいくら請求してよいか分からなかった奈良氏は、冗談半分で当時の高卒初任給の額の 4 万円を請求したら即決で成立。そのままアルバイトでギターの広告を製作した。

何回かグレコの広告をこなしした後、(高すぎるギャラに)鈴木部長から正社員になるよう説得されるが、サラリーマンに成る気がなかった奈良氏は、金を貯めてアメリカに行くつもり…と夢物語を語って逃れる。しかし、鈴木部長は奈良氏の才能が優れているのを見抜いたのだろう。それすらもなんとかすると約束され(普通に考えて一部長がそこまでの権限を持っているというのも凄いが)、椎野氏に続くように 1972 年 7 月、神田商会に囑託で入社。荒井貿易のルートでシカゴの楽器問屋 デビッド・ウェクスラー社(David Wexler Co.)に行けることになった。奈良氏は、急速、富士弦楽器で 1 か月のギターの修理の研修を受ける。David Wexler Co. で約 1 年間修理の仕事をしながらかアメリカの音楽・楽器事情をつぶさに見聞きして 1973 年帰国。“お礼奉公”のつもりで 3 年は勤めようと思ったそうだが、ずるずると 7 年在籍し、神田商会取扱いブランドの殆どの広告制作、さまざまなイベントの発案、エンドース、小売店バックアップ(Rock House Ikebe に代表される)、輸入業務、製品開発、Player Magazine の創刊など、神田商会社員という枠を越え、多岐にわ



それ以外に色々な企画をしてきて、アマチュア・ミュージシャンを集めてポップコンに送り出すこともした。それには自分もやらなければならない。仲間で作った2枚組のLPも作った（そこから数々の有名人輩出。もともとサルビアの花もヒット）。それをヤマハの川上源一社長（当時）の耳に入り、全国のヤマハショップで同じような活動が推進されて行く発端になった。



Greg Stinsonという人物で、David Wexler Co. で一緒に働いていた。いわゆる同僚。アマチュア・ミュージシャンだった。一緒に写っているのは当時の彼女。後年、プロになり Shaowfax というグループで来日し、再会した。Windamhill レコード。（Greg Stinson氏はグレコ製ダブルネック、彼女が初期グレコ&CANDAカタログを見る）



シカゴのポスト前で、渡米先を決める時、ニューヨークカロス、南部の商社のどれにするか提案があり、荒井貿易の山口氏に、奈良氏は迷わず「シカゴありませんか?」と尋ねたそう。理由は「シカゴブルース」という響きだけ、それだけでシカゴ行きを即決してしまった。Wexlerは通販のカタログがあって、奈良氏は毎日のようにそれを眺めていたそう。それは楽しい図鑑で赤ちゃんの玩具まで扱っていた。初代社長がデビッド氏、二代目がバーナードで、非常に丁寧な人柄で、当時は奈良氏の面倒をよくみてくれたとのこと。

たり音楽・楽器事業と関わることになる。

1972.7.

フジゲン研修行ったのは、アメリカ行く前、ひと月くらいだよ。

●その時、親父が初めて駅に迎えに行ってた。鯛萬かなにかのレストランに行ったんですよ。一番初めて松本に来た時、俺まだ社員じゃなくて制服で

あそう? ごめん記憶がない。お父さん迎えに来てくれたの… 申し訳ない 生意気だったなあ…

●鯛萬は松本で一番のレストランですよ

僕、この焼き肉うまいとかいったのかなあ(笑)

デビッド・ウェクスラー社ってのはシカゴにある問屋さんなんですよ。

僕そこに行ったんですよ。ホールセラー。問屋さん。荒井貿易が輸出してた先。

フジゲンが輸出してたのはコンラッドっていうブランドのConradの。OEMエレキもアコースティックもあったし。

(後日調べで、コンラッドはマツモクが製造していたことが分かりました)

シカゴに行くとき理由がないとまずいじゃない? そしたらギター直せるリペアマンが欲しいって。

それで初めてギターってどういう風に来ていたのか知ったの。それまで知らなかった。興味なかった。

本社の二階に泊まって…

●高山さんの松本弁について

そうそうそう。だね〜。そうだじーって言ってそうじゃんねーって(笑) ※モノマネ

●Y版(黄色版)かぶりのカタログについて

正直言ってコレ凄いいよ。黄色かぶりのイラストのカタログ。Y版がものすごいカブってる。これが最初にやったカタログ。それまで僕やってない。それまでは椎野さん。

カタログは、山下っていう高校の同級生とやったわけ。(山下信夫氏) 山下って言われても知らないでしょ? 大変な人なんだよ。ブリキのおもちゃの製作者で、彼がイラスト描いたの。こういうカタログは当時なかったの。あるわけじゃないじゃん。(型番外しも) そうそう、楽器業界の常識みたいなのがあるわけじゃん。変えてやろうという気じゃないんですよ、おかしいじゃん? っていうかみっともないじゃん、ってことがいっぱいあった。

●ギター用語を勝手に作ったことについて

僕はね、ギターに詳しいとかそういうんじゃないんだよ。そうじゃなくて、これっておかしいんじゃないの? って。こういう言い方って。

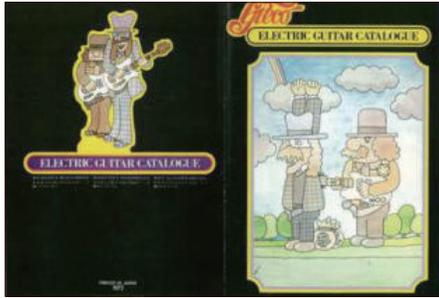
一番驚いたのはフジゲン行ったときに、高山さんに僕がフォークギターの話したら「ああ丸穴ねー」丸穴?? あとフォークギターっていう呼び名はないでしょって。だから最初にアコースティックギターとか、あとハンパッキングって最初に使ったの。ギタープレイヤー読んでたらできた。まだいっぱいありますよ。

マイクって…マイクっていったらマイク真木だよ(笑)。向こうではピックアップって。

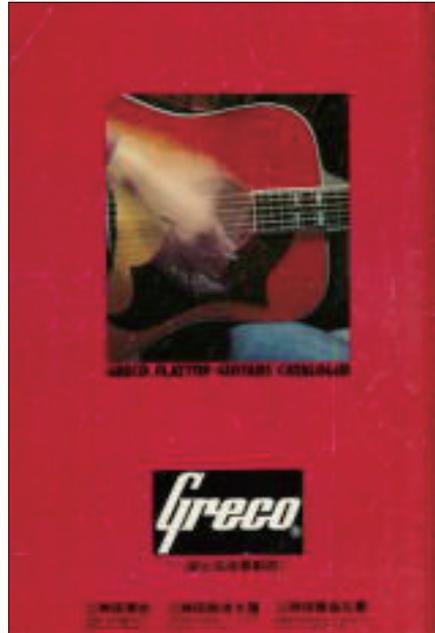
他に作った用語は…カタログ作るたび変えたからねえ…

エスカッションをマウントリングってかえたのがそうだね。なんでエスカッションで言うの?

その他、スピードノブとか、現在も普通に使われているパーツやギター用語をたくさん命名



黄色かぶりのイラストのカタログ



自身がギターを弾く表紙のカタログ。型番定価廃止が営業に不評を買う。



ヘッド・ロゴは神田商会近藤専務デザインだったキャンダ

されています。

Greco のアコースティックギター 303 のカタログを見て…赤い表紙のカタログが目に入り

これ！弾いてるの僕じゃん。これ僕だよ。この服で思い出した！

CANDA のロゴマークって誰考えたか知ってる？あれ近藤専務だよ。

あれキャンダってなって、ロゴマークのデザイン…「奈良君 クナイスルみたいなのやつどうかね？って」

クナイスルわかる？スキーの。はいわかりました。こんな感じかなって（やった）

●最初近藤専務がヘフナーのベース持ってきてねえ

だってねえ！

●あのころは小嶋さんとの力関係は近藤さんの方がはるかに上で

だねえ。

●後に逆転してきて

なっちゃったんだねえ、だからそれ読んだときにそうだったんだって思った。すごかったんだろうね、神田の中もね

●最終的に鈴木営業部長がフジゲンのルートを独占しちゃって自分の子飼いの齋藤さんとか奈良さんとかしか行かせないんだよね。

ああ！そうかそうか。独占しちゃうんだよね。なるほどねえ。

●で力をぐ〜っとアレしちゃうでしょ？

なるほどねえ そうだったんだ。…僕なんかアシだったから（笑）

●で、最後に…どんでん返し？（笑）テーブルひっくり返しがある（笑）

ああ…あれはねえ…去年ダイナ行ったとき、中村さんはダイナ行ってて、彼はよく見てて…覚えてんだ。あんときは凄かったですねえって言った。工場長だってね。

●神田商会にフジゲンから出向してきて、フジゲンが景気悪くて、人件費を杉本君とか中村君とか神田商会にもってもらったわけだね。

あそう！？

●それで赤羽の社員寮に入れられて半年くらいいたんだよ。」

●有名な成毛滋氏の Greco ソノシートについて

●ソノシートって奈良さん？

え？椎野さんの発案じゃないかな？

●奈良さんって言われてますけど…

違うだろ?? どんな内容だった？女の人じゃなかった？椎野さんに聞けばわかるって、グレコと成毛滋の前半、導入部分は全部分かると思うよ。椎野さんが神田商会に引き合わせたんだから。椎野さんいなかったら僕はいなかった。

（音源1を聴く）あ〜、これ成毛滋だあ…成毛さんの音。マイナー・ペンタトニック。

（音源2を聴く）「ニューロックの…」あ〜、…これ僕だ…成毛さんの部屋。部屋だった気がする。で、ベッドがあって、それで…そうそう…事前に聞くことをリハーサルして…次に成毛さんの言いたいことがあって、それを打ち合わせした。（ウーマントーンとか）そう、言いたいこと。

●奈良さん神田商会入ったばかり？

うん〜と…そうだね。だと思ふ。フジゲンの研修行くか行かないかって頃だと思う。はい。恥ずかしくてすぐ消しちゃったね（笑）

※（自分の声のMCがずっと流れていたのでもう恥ずかしくて消したのです）

●成毛モデルに関して

えつとねえ…良くネットでプレイヤー・マガジンの人が、奈良さんそうなんですか？ネットに出てますよって言われて。こんなこと、あんなこと書かれてますって…僕調べてないからわかんないけど、成毛モデルって言ったのは小



神田商会 12 階の仲間。

嶋さんです。え〜と…社内的に言ってただけ。広告で成毛モデルって言った記憶がない。あるのかな？ないでしょ。社内的にアコギを“丸穴”って言うてるようなもんで（笑）、コンタードの入っているやつでしょ？コンタードが入って、ブロックポジションの EG を言ってただけ。だって分かんないから。なんて呼ぶか…僕が記憶があるのはねえ、トップ単板のギターを作れる技術がフジゲンにあって、その広告を作った記憶がある。それが成毛モデルというレスポールだったかどうか記憶はないんだけど、それはブロックポジションのコンタードボディ？ご本人が言ってた話じゃないんじゃない？社内的に言ってただけ。コンタードの入ってたのは…大体コンタードなんて言葉もなかったけど。

成毛さんとしては、ちゃんとしてほしかったんでしょうね。お金とかじゃなくて、きちんと断りいれるとかね。グレコへの貢献度は計り知れませんかね。

### ●成毛氏とのこと

成毛さんには僕と Player Magazine の初代編集長の河嶋さんはずっと誤解されて来ましたがね。

実際、神田を辞める時に挨拶に行ったら、彼、それがいちばんいいよと。ほっとしてましたから。

すべては奈良と河嶋が神田商会、Player の中枢を握っているという思い込みの反動だと思う。

周りでだけしかけた人もいますがね。それが残念で仕方ない。

ロンドンで生活されている時に訪ねて行った記憶があります。日本に帰ってコンサートをしたいから、

神田商会に後援してほしいとたのまれ、小嶋さんに掛け合いましたがつれなかったです。実

現しなかった。それも尾を引いてるんでしょう。奈良が握りつぶしたと。広告やギター製作ならわかるけど、お金も人材も使って日本青年館クラスのハコでやるコンサートですよ、そんな力、決定権僕にはありませんよ。

成毛さんは希有の音楽家です。優れたギタリストであり、ユーザーへのインパクトは筆舌につくせません。

成毛さんには、日本の音楽・楽器シーンを変えたい、ギター少年の意識を変えたい、という信念が強くありました。それだけに、残念です。今でもリスペクトしてます。

ちゃんとエンドースして「成毛モデル」を出せばよかったんですよ。あれだけの貢献をしてくれた方ですからね。コンタードの Les Paul, いいじゃありませんか。

### ●沢田さんと神田商会のリペアルームについて

これがねえ…そうなんだけど。この沢田さんって人はねえ、椎野さんと沢田さんで、成毛滋さんとかやってたんだけど。この人がアフターサービスってのを神田商会に作ったんだよ。

●斎藤さん入ってないのはどういうわけ？

写ってないだけかも…。あのね、神田商会が 12 階借りるようになって、何をやったかっていうと、ひとつは奈良を中心とした企画室、そこで広告関係とか貿易関係。もうひとつはアフターサービスやろうと。ギター直したりアンブ直したりね。そういうのをしながらミュージシャンとコネクションを持とうという計画があってアフターサービス部門を作った。

●12 階全部借りきっちゃって

で、沢田さんは当時 20 代後半だよ、きつと。それから小幡亨さん、彼が僕が辞めた後の企画室のトップになった。面白い人だったね。ドラムの人。で鈴木潤さんといってエーストー

ン辞めてきた人。それで、これは Nancy の岸田さんの若い頃。イシバシ楽器の彼、研修に来てただけど、彼に聞いたら 74 年だってこの写真。

●ああ、イシバシの副店長やってた？

そうそう。

●で、レオミュージックの長沢さんって

レオの長さんってのは、神田商会から独立して PA 屋を始めたの。ミュージシャン向けの。

●グレコの立ち上げの時に長沢さんが…

OK！OK！だから沢チャンと長さんと椎野さん。だから成毛さんを引っ張ってきて小嶋さん（当時は鈴木部長）に紹介したのは長さん。だからグレコをガーンとエレキ化させたのは沢チャンと長さんと椎野さんだね。

●椎野さんは神田商会の社員だったことがあるの？

あるのよ。僕がシカゴから帰ってきたらもう違うどっか…モリダイヤかどっかに。

●フジゲンにいたのはその前ってこと？

そうそう。

●それで ESP 立ち上げて

そうそう、DJ 機器のベスタックスを世に送り出して。先見性が凄い。アイデアマンだし。

### ●レッドツェッペリンの話

これは一番好きな話なんだけど、誰も触れてほしくない話。僕的には凄く好き（笑）

どういうことかという、僕がシカゴに行く前に、9 月に行ったんだけど、その前に神田商会に囑託に入った。

社員にならないか？と言われたが自分はアメリカに行きたいって夢物語のようなことを言ったが、小嶋さんがお膳立てしてくれた。その時も UDO と付き合いがあって、ツェッペリンが日本に来るらしい。で広告出すんだよ。で広告作れって言われた。で、広告作る際に「ジミー



海賊版レコード、ノーユースグレコ



きょと弾くって…



ページに絶対グレコ使わせませんから」って言う。「ホント？」で、僕はジミー・ペイジが今夜グレコを使うという広告を作った。そしたら使わなかったの。

その後は僕はシカゴに行ったあとなので知らない。そしたら大変に大モメしていると小嶋さんから手紙がきた。それは金で解決した。100万円払ったと。

日本はモラルなんかなかった。エンドースのモラルなんか。今の中国みたいなものだから。でも彼らにとっては契約社会だから「僕はUDOとこんな契約していないぞ」と。UDOも神田も焦った。訴えると。

当時の100万円(1ドル360円)だからかなりの金額だね。それでシュツ(チャラになった)。

(神田に保管されている成毛氏がジミーに手渡している写真を見て)

あれは大阪で成毛さんが渡したの？ああそう。その写真が100万円ということだね(笑)

●海賊版レコードでノーユースグレコというのがありますね

いいな。いいね。そういう話大好き。

だから何があったか全然知らないわけ。行っちゃったあとだから。ただ僕は使うっていうから広告作った。

それとね、あと決定的みんなと違うことがあって、ミュージシャンだからって全然ビビってない。たぶん違う人だったらビビるでしょ？例えばNYのPushpin Studioのデザイナーと会うとか、その人と契約でもめたとかならビビる。K2の長友さんと会った時は頭が真っ白になった。そういうのはある。でもミュージシャン？別って(笑)知らなかったんだよ。で奈良はナメてる、奈良は生意気って思われちゃったけど違うんだよ。知らなかっただけなんだ。なんで、皆あんなワーワーキヤーキヤーすんだよって。

わかるけど僕の中じゃ別に(って思ってた)。

フェイセズはねえ、僕の中ではフェイセズは印象いいんだよね。ロニー・ウッドなんか紳士だし。ロニーがギターを作ってくれていうんで打ち合わせしたんですね。ホテルで打ち合わせしたんだけど。RW、あれちよっといい加減なんだけどね。これなんでこんな形で出たの？メッセージャーなんか沢ちゃんややったんだもん。沢田さん(神田商会アフターサービス部門のチーフ)。

Roto Sound。これすごいね知ってるよね？輸入したんだよ。で、なんでかって言うとロニー・ウッドに合いにイギリス行ったの。その時に山内テツが日本の公演の時にロトサウンドの弦使ってたわけ。僕、「こんな弦があるんだ」って言ったら、山内が「この弦すげーいいんだよって、それじゃあことエクスクルーシブとろうかっていってイギリス行ったときに、住所聞いてベックリーヒースってとこで、電話してロトサウンド訪ねていった。

日本から小僧がきて「契約」ってホントかよこいつって思うじゃん？で契約しろって「どんくらい？」ってとんでもない数量いうわけじゃん。こっちが。眉ツバじゃねーのって(笑)本気にされなかった。でも山内テツやフェイセズのちゃんとした紹介状もあるからウソじゃねーんだろうなあって。それでホントにLC開いたからびっくりしちゃった。そんなのまだいっぱいあるよ。キリがないくらい…。

1974

### ●プレイヤー設立について

面白い話があって、発端は、シカゴから帰ってきて、だいたいアメリカなどに行つて仕事をしてくと天狗になって帰ってくるわけ。しょうがないんだよ。で若造の僕は偉そうに、鈴木



RW



Gretsch 1974 年 ディーラー向けマニュアル、ロトサウンドの弦にも注目。

部長に「オレ、なにやったらいいですか？」と言うと、「バカ野郎。自分で考えろ！」といわれたんだけど、「自分で考えろ？何かやっていたんだ。」と「じゃあ雑誌作りたいです」「雑誌でどんなことやるんだよ」「雑誌やれば楽器の話ができるじゃないですか、今はミュージックライフ誌しかないし、楽器の話も出ない。ピックアップの話をしよと思ってもできないじゃないですか。ウチは取り扱い商品はいっぱいあるし宣伝もできるしいじゃないですか。」って言った。当時アメリカのギタープレイヤー、クリームという雑誌があったんですが、そんな風なのをはじめようと思った。

歴史で出てこない話、河島彰さんという編集長。この人がいなかったら Player はなかった。そのくらい僕は評価している人。また二代目の編集長の田中実さんも素晴らしい編集者です。河嶋さんがばらまいた種をじっくり育てた人です。

それでも、どんどん海外も日本もミュージシャンが来る一番活気があった時代だった。1974～1977 くらいだね。VAN HALEN, Queen, KISS? もちろん会っています。

### ● Player Magazine について

シカゴにいる時、同僚のグレッグ・スティンソン（ソファーで W ネットを弾いてる写真の主）のアパートに遊びに行ったら Guitar Player 誌があってね、グレッグがこれは読んどいたほうがいいぞって。読めとすすめられたんだ。あの頃はベトナム戦争の末期で、徴兵制度がなくなるっていうんで、大騒ぎだった。サブカルチャー雑誌が街にあふれていてね。見るもの聞くものすべてが新鮮だった。

で、ほとんどの楽器の情報はここからいただし、リペアに関してはダウンタウンの楽器屋に入り浸って学んだ。

帰国して最初の仕事が「音楽雑誌ではなく、楽器雑誌を作る」でした。人と時代、運に恵まれてました。スタートメンバーは編集長に河嶋さんでこの方はデザイン畑出身でしたからハナシが合いました。レイアウトは綱島さんというデザイン学校出たての女性を入れ、社長には業界誌を辞められてフリーでいた島田さん。この人は面倒見のいい、素晴らしい人。業界の重鎮です。アイデアマンでしたね。カメラマンに山中さん、発行人の山中さんが女性で、その弟さん。それと、営業で入られて、河嶋さんが抜けたあとに2代目の編集長になられた田中さん。この人は Player Magazine 中興の祖です。誌面の拡充だけでなく、別冊

を幅広く展開したり、河嶋さんは音楽業界向いてる感じでしたが、田中さんはバランス型というか、楽器業界も大切にしたい。ギター、すごく上手いですよ。コレクションもすごいね。

Player には神田を辞めたあとも役員として残ってましたが、辞めたんで株を田中さんに譲ろうとしたら、小嶋さんから神田商会の定款だかなんだかに、退職したら株は返すと…で、小嶋さんに買い取ってもらって、抜けました。ほんとそんな規約ないんですが、小嶋さんともめなくなかったし。Player には頑張ってたはいいですね。ネット時代で大変ですけど。

### 1975

1975 年製 MR1000 を抱えながらあれ？これなんでシリアル No. ないんだ？シリアル No. 考えたの僕と高山さんだからね。

### ● 75 年から…

それね、高山さんの話してる時ね。彼とやってるはずだから。機械があったのよ。（刻印する機械）

### ● MR と 2011 ショウモデル MR について

MR が…去年の何月だったか覚えてないんだけど、横ちゃんと桜井さんとか話があつたときに、僕 MR 探してるんだけどなかなかネットに出てこないねえ…って言ったの。で、じゃあ作ってやるよって

### ● 桜井さんが？

うん。作ってやるよって。じゃあどうせ作ってくれるならボツになったやつ作ってくんねえ？って言ったの。ボツになったのなんてあるの？っていうからあるあるって。覚えてんの？いや、全部記憶の中にあるって。なんでボツになったの？っていうからそれは小嶋さんの一言。今だから言えるけど。当時なんか言えない。当時って言うか前、取材受けたときとか…それからやっぱし…まだ自分が現役だったから。5 年前 10 年前なんて現役バリバリだから、やっぱしこう…なんかこう自分の中で言っちゃまずいんじゃない？ってのがあって。でも僕なんかもうカウントダウンはいつやったから（笑）ホントホント。カウントダウンはいつやったから知ってることは全部言っとうと思う。

胃を3年前…いや2年半前かな？取って…仕事中に倒れて救急車で運ばれて…で胃ガンですよ。で取って。で今年の1月に転移して…それで何もしないと半年って言われた。処置すれば1年半くらいいくんじゃないかって。皆が処置してくれて言うから処置して。人それぞれだもん。僕のは若い頃悪さしてるから（笑）コブラツイストかけてたから（笑）わかんないけど、たぶん皆とは様子が違うと思うんだよなあ…

### ● 高山さんは最近会った？

うん会った会った。上條さんのなんかじゃないかな？

### ● 御葬式の時ね

そうそう。



MRのボツになった最初のデザインを説明する奈良氏、このデザインをアレンジして2011プロトタイプに入れられた。k



MRのアイデアの元になった白黒のビートルズ写真。

●7月呼びますからね、これだけで（松本オフ会のこと）

あ！あの人呼ばなきゃ、あの人ノート厚いの！あのノートもらっちゃえばいいのに、中田さんも、絶対3人呼ばなきゃダメ、牛丸さんなんか絶対、全部知ってる。

元気なウチは皆ホントのこと言わないからダメ、片足突っ込んで初めて言うんだ、今日はホントのこと全部言っちゃう。

### ●ボツになったMRのヘッドデザインについて

で、なんでMRがボツになったのかというと、あのデザインではなくて…（書きながら）この形はかわないんだよ、で、ここに花が入ってんだよ、それからThe Grecoって入ってる、それからこの時からミック・ラルフスのよ。

●ミック・ラルフスのために作ったということ

そう、ワンオフで行きたいって、ところがね、当時技術的にまだ無理だった、転写を一個だけ作るなんてことは出来なかったし、貝でThe Grecoって入れることができなかった、で、今回僕が言ったら、ああ、全然ワケないって、じゃあ、僕このユリの花みたいなの嫌だから、ここを人が飛び込んでいるカタチに変えちゃったの。

当時は、こんなの出せるわけねーじゃねえか、ここにGrecoって入ってなきゃダメだ、って、（小嶋社長に言われた）

●社長さんが？

そうそう、だからこれがボツになった、本来はこんなようなイメージが僕にはあった、で、あの形はミック・ラルフスと相談してやったのかというとそうではなくて、自分の中に…今無いんだけどさ…ノートがあって、バンバン描いてた、いろんなもの、それは広告のラフとか、デザインもそうだし自分が気になった言葉とか

…、つい最近だと、こんなようなノートの中にビートルズの写真があって、ポールが弾いてるんです、あれがずっとあったんですよ。

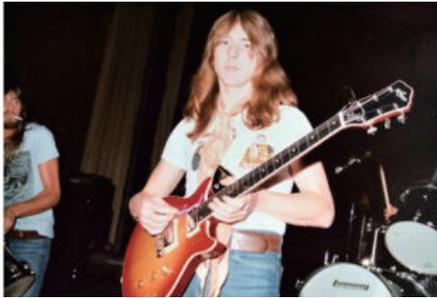
もう一個はKAYとかハーモニーだとかアメリカのシアーズが扱っているようなやつ、ギターのデザインだとかは、ちょうどシカゴ行ってる時、こんなに暑いカタログがあったから毎日のように見てた、皆さんと一緒に楽器少年だった、それがあった。

それで、ミック・ラルフスに話をしながら描いてるときにそれでいいって、24フレットでいいか？「OK」レスポールの音でいいか？「レスポールの音で無ければいやだ」

で、僕の目論見が間違ってたのは、非常にバランスが悪い、どうしようもなく悪い、出来あがって、ダメだこりゃって思った、思ったけど、6月に彼に渡すことになって…今から直しきかない、これでやるっきゃねーなって、あもうこれ絶対商品化なんて無理だなって、こんななっちゃって（ヘッド落ち）でもねえ…彼は全然、一言も言わなかったよねえ、シャキシャキ弾いてたし、それは75年です、彼が日本に来たのは75年の3月だと思うけど、それがさっきの写真、バッド・カンパニーの日本公演ね。

それシアトル公演に持ってった、今じゃ考えられない、考えられないことばかりだった。  
●じゃあそこに行くまでのアポイントはどうやって？

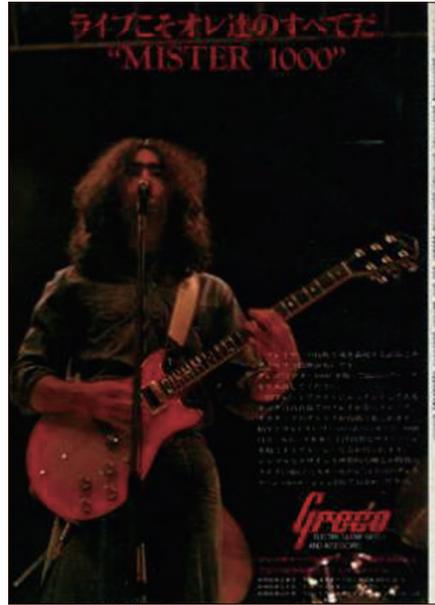
え〜とですね、ミック・ラルフスが来る前から、いろんなミュージシャンが必ず神田商会に来る雰囲気、どういふことかって言うと、呼び屋は当時UDOだったんですけど、UDOと神田商会って広告の出し入れやってたんですよ、だからここにアーティストが来ると・ほら、あるじゃないですか、接待の、そういうツアーの一環としてここに来るってのがあったわけ、それでここでギター作ってもらったり、ギター



1975年 BAD COMPANYのミック・ラルフス、シアトル公演のリハーサル風景。



BAD COMPANYが3月初来日した時、ミック・ラルフスと握手



MUSICLIFE1976年7月号 MR MISTER1000 ポール・ロジャース



MUSICLIFE1975年11月号 MRの名称募集広告。MRはミック本人の実機。



MUSICLIFE1975年9月号記事 ミック氏がアメリカのライブでMRを使用中!

をお土産にもらったり、そんなようなことしてた。UDOとしては、うちこんなどこ知ってたよって。うちとしては色んなミュージシャンがくるから、エンドース的なことができんじやないの？みたいなことがあった。これが色んな問題に発展していくんですよ。ん～だからなんでこうなったのかな？って考えるとこれか、これかって（笑）

### ●グレコ・オリジナル・ブリッジBR2020について

●当時、バダスは神田商会が独占販売権を持っていたようですが、なぜBR2020を使ったのですか？

MRはバダスじゃなかったね。理由は思い出せない。BR2020はだれが決めた品番かな？なんとなく、僕っばい（笑）

このパーツ使いたかったんだな、きっと。このパーツ他のモデルにも使っているの？

バダスの弱点を改良したことは間違いない。高山さんに訊くしかないね。開発経緯は。

バダスを輸入したはいいが、イマイチだった…なのかも。ベースブリッジのほうは評判が良かったという記憶があります。

ブリッジは、明らかに、手元にあの3点アジャストの“バダスもどきのBR2020”があったんだと思う。あるいは、すでにその存在を富士弦経由で知っていた。

その時点（1975年春）で、いちばん旬なパーツだったのでしょう。

高山氏に確認したところ、BR2020は、バダスの欠点である前傾姿勢を改良するために、中央P.U.側にイモネジを配置したとのこと。当時、富士弦楽器で考案し信越鋳螺で製造させ

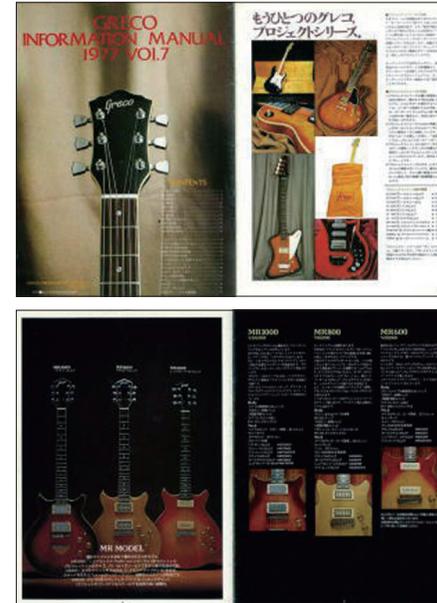
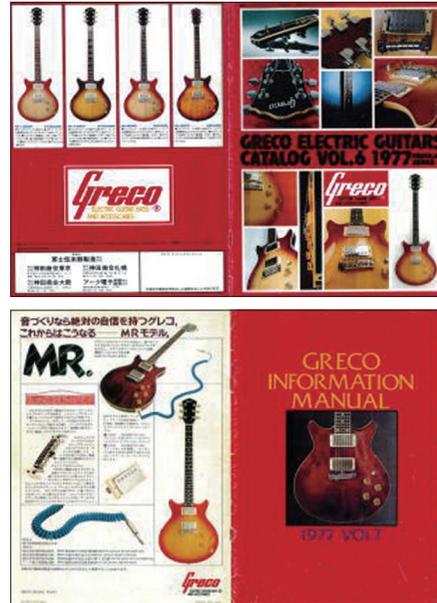
たものです。との回答を得た。当時は、その類の金属部品は信越鋳螺で作り、金型は富士弦楽器で持っていたとのことだ。

●森園が使っていたMRはブランコテールピースなのですが、本人からリクエストが？

ごめんね記憶ない。それはないと思うよ。あのね、たぶんだよ。僕、自分でやっておいて、あ〜、みっともねえなってずっと自分で思ってたの。僕はあれが気になって気になってしょうがなかった。僕も最初いいと思ったのよ…でもこうなるしねえ（ヘッド落ち）…。で、そんなにずっと溜まってたわけ。それと同時にねえ。イケベの35周年史にはもう言っちゃったから書かれているけど、僕の同級生がどんどんアートディレクターになっていくわけ。高校のデザインの学校で優秀なヤツばっかりでさあ。どこ



1977年MRの広告。弾いているのは奈良氏。



どこの広告やったバイオニアやった資生堂やった、ってくるわけ。同窓会なんかで会うと僕なんか肩身狭いわけ。僕なにやってんだ…こんなやってんのかよって思っちゃうわけさ。

そう。すごく冷めてた。

●好きじゃないのに番組のMCやっちゃうってそう。あれも辞めるきっかけだよ。小嶋さんに僕は君のなんなんだい？ってのがあわけ。ま、その頃はまだ若造だからさ…いや、今は本当に感謝はしているけども。当時はね…便利屋じゃねえのって。

●なんでも言えばできちゃうからですよまね…器用だからね。背がでかいし目立つし(笑)

●コンポーネント・ギター模索

その前にね ディマジオやったり色々やった

のよ。それからバダスが入ってきたでしょ？そういうんで、アメリカでは漠然とコンポーネント・ギターっていう流れがあった。

神田の中でもコンポーネント・ギターの…まず小嶋さんのとこいくじゃん。他に振ったってしょうがないから。で彼、コンポーネント・ギターって意味わかんなかった…そりゃ、オーダーメイドだろ。で…「沢田さんのところで受ける」と。ダメ。却下。

あれやってたら面白かったよね。だから椎野さんすごいよな。わかってたから。

※そしてESPに先を越されてしまう

●ピックアップに名前がなかった件

ピックアップ。マクソンU1000 あれは理由は簡単で、値段の違いをどこで出すか。1000, 2000, 3000…最初は1000だったんだけど常識

的に1000より2000の方が良くないとまずいじゃん？でも同じなんだよ。

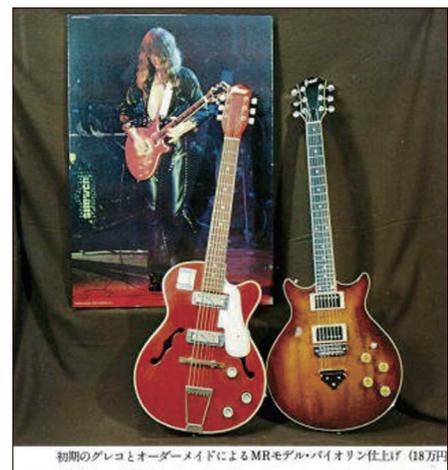
●じゃあ何が違ったんですか？

知らね(笑) ちょっとデザインとか違うかもしんない。須山さんに聞いてみれば？ワインディング数とか違うんじゃない？たぶん。(※後日、牛丸氏に違いをお聞きしました。マグネットとコイルのターン数が違います)

おばちゃんが野沢菜摘みながら巻いてたんだよ。よくそういう風に言ってたのよ。(愛情込めて)

「誰が作ってるんですか？」「ルシアーは誰なの？」「おばちゃん」だって(笑) ギターもクロマティック弾くの上手いんだ！早いよね、検品するの。オルタネイトじゃないんだよ。全部ダウンで早い早い。

松本は毎月、年中行ってた。彼女おもしろ



かったねえ。山田のおばちゃん。名物の。

1977

●リック・ニールセンにギターをデザインしてあげよう

1977年にデビューした、アメリカのロックバンド“Cheap Trick”のリック・ニールセンのために、Player Magazineと共同企画した“リック・ニールセンにギターをデザインしてあげよう”で第1位を獲得しリック・ニールセン本人とデザインした本人にあげたギターです。

Cheap Trickは、まず日本での人気が高まって、1978年4月に日本武道館で初公演を行う。そのライブ・アルバムの本国でのヒットにより一気にメジャー・バンドとなった。またリック・

ニールセンは大のギターマニアで、当時はグレコを愛用したことで有名。それも大の仲良しだった奈良氏の力があったからこそです。

デザインした人は（本当に偶然ですが）私の後輩で、大木理人氏です。大木氏とはデザインで当選し、打ち合わせで会った時に知りました。

これも偶然なんですけど、後年神田商會を辞めてデザイン事務所（ツートーンクラブ株式会社）を興したときの私のアシスタント、小林博之氏（現社長）が彼と同級生でした。

小林氏は楽器はやりませんが、私の関係下にいたので楽器業界との縁は深く、Player Magazineの田中元編集長と懇意です。

The Guitarを始めとする別冊のデザインは彼の手に乗るものです。

また、大木氏は絵がとても上手いので、彼と小林氏、Player Magazineとの3者共同で、Player Magazineのミュージシャンイラストの販売をやっています。

何本作ったかは、高山さんに聞いてください。（※リック用とデザインした方用の2本と思われるます）

●グレコ愛用者カード

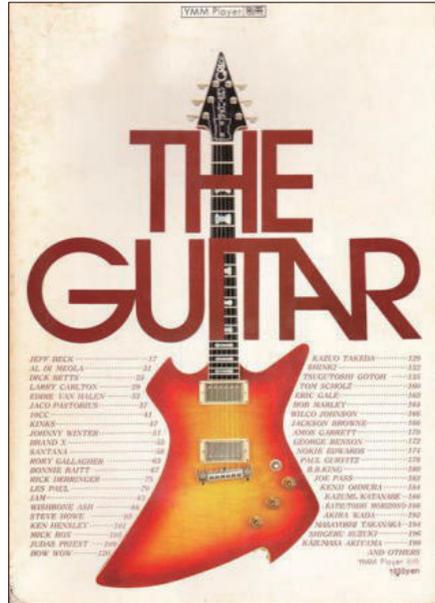
●フジゲンに送ると、きちんと手紙で返事がきたようですが

そういうのは高山さんだよね…フジゲンは高山さん。神田は僕。高山さんって僕と良く似てて、しゃべるスピード凄く早くて、両方とも胃が半分無いんだよね（笑）僕、太鼓判押されちゃったんだから駄目だけど。

後日高山さんにお聞きしましたが、ご本人は



リック・ニールセンモデルをデザインしたのは(偶然だった)奈良氏の後輩で現在アートディレクターの大木理人氏。(フジゲンにてパーツ組み込み前のものを持つ)



1977年 PLAYER 別冊 THE GUITAR 表紙。デザインはアシスタントだった小林氏。ギターは「リック・ニールセンにギターをデザインしてあげよう」で一般公募の中から選ばれたギター。



Cheap Trick のリック・ニールセンはベックリの仲。



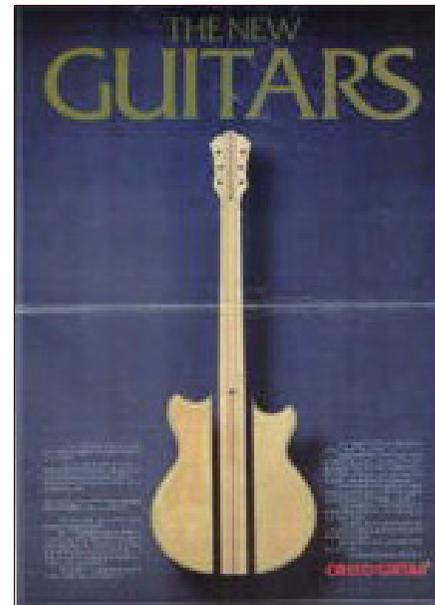
違うと仰っていました。

●77年の楽器フェアでグレコの出展物資料が雑誌に載った

それは科学技術館でやったやつだね。

●その時の本に何が何本とか、型番も出ているんです

それは高山さんだね。中田さんと高山さんのノートを見せてもらいなよ。凄いから！適当に一度喋ったこと全部控えてある。で、元々ね、フジゲンは Ibanez をやってたでしょ？星野楽器にはジェフ・ハッセルバーガーってヤツがいて、こいつがエンドースやってた。で、ボブ・ウエアーもそうだったし、ジョージ・ベンソンもそうだし。でさあ、神田商會がこんなデザインがいい、こんな音楽が流行ってる、こんな作ってくれって言ったって、ジェフ・ハッセルバーガー側からきたヤツの方が絶対洗練されてるじゃない？だからフジゲンの中にもそういうのはあったと思う。星野の方が情報が新しいし斬新だし。僕はそれは全然否定しない。絶対そうだと思うから。で、そんな中に Ibanez が作った中に、なかなかいいのがあるのよ。うん。それで、当時アレンピックが流行り始めてた頃で、それが発端だよ GO は。通しネックは。



で、通しネックを作るってことになって鮮烈に覚えているのは、これは国内最高のモノが作れる！僕の中で一番いい広告が作れるって…そういうのがあったね。だからあの広告はもう誰もノータッチ。ダメ。僕以外ダメ！コピーから何まで全部やった。

●大木のところに3本立て掛けたあれも？  
そう。  
●覚えてます？  
もちろん！…このトレモロねえ…なんとかならなかつたのかなあ(笑)(T. S. ビブラートを見て)



**これが改造ストラト  
7色の音色だ**

ROCK HOUSE  
**イケベ**

株式会社 池部良 代表取締役  
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 電話 03-5561-1111

1970年代 イケベの広告 (イケベック) 奈良氏作

**SUPER  
KEYオリジナル**

**AK**

「これは最高のギターだ。これに勝つものは無い。これは最高のギターだ。これに勝つものは無い。」

AK-1400 W140,000(ケース別)

**ギ タ ー キ ッ**

●SE800JBのカatalog表紙をみて

イケベ最初の“ギターの載っていない広告”大反響だった。

これねえ…これ、(現在校正中の本)奈良がどんな広告作ったかかっていうのがあるわけ。一番最初これなんです。これでイケベがいきなり全国区になった。イラストだけで全然楽器が載ってない。これでオープンしたら凄かった。

●イケベの広告を神田で受けてた？

それが違うんだよ。話すとき長くなる

●4万円のクチ？

よく知ってるねえ(笑)。だってイケベはオープンしたの75年だから。池部さん有名だったから。当時なんで有名になったかといえば、営業マンで地方へ行くじゃない？するとおはようございますって、山野だったから。で、楽器屋さんに入って、自分のバッグからギタークロス出して1本1本磨くの。よその会社のギターも全部磨く。そういうエピソードを小嶋さんから聞いてたの。で、小嶋さんが池部さんに店出すときはおれに一声かけろよって言ったの。池部さん、実際に行ったわけ。そしたら小嶋さんがよし！わかった。と。で、僕は隣の部屋だったからすぐ呼ばれて。池部さんお前知ってるだろ？「はい知ってます。」今度店やるからお前全部やれ。面倒見ろと。で僕の中には小売店の広告やってみたくてというのがずっとあったわけ。普通の楽器屋さんとは違うスタイルでやってみたくて。普通なら広告出すお金なんかないじゃない。でも神田商會が全部持つってわけだから…そしたら、全国区のミュージックライフの広告1ページで。当時40万から50万でしよ。今で言ったら100万くらい。

●他の楽器屋からしたら凄く頭に来ることだよ大変なことだよねえ…

●僕って凄く難しい男だったんですよ。好きな人は好きなんです。池部さんとはずっごい

気が合う。で、なんとかこの楽器屋さんを短期間で全国区にしたいと。あつという間だったよ。1年だよな？というわけで凄くご法度やったし、そんなんでね、他の地区の担当営業マンからはもの凄いやな目で見られた。

●JBモデルはイケベが先にやったのですか？

…僕はそう思います。

●それが凄く反響で売れて、なくなってグレコのレギュラーモデルになったと

そうじゃないですか。

●イケベはショップオリジナルが多かったですね

そうですね。ある意味グレーな言い方だと…既存のお茶の水とは違うやり方をね…やらないとやっていけないじゃない。KEYなんか凄くオリジナル作ってたよね。

●オレの担当したAKI400とか

KEY担当だったの？

●そう。最後イシバシも担当だった。イケベさんはずっと安川さんがやってた

で、このアイデアがどこから来るかっていうとPlayerの河嶋君。河嶋君が「奈良さん、海外からこんな写真が来たんだよ」って。バックの何これ？凄くね。じゃあウチ作ってあげますからって作って。

●回路の解析はフジゲンでやってた？

それは牛丸さんに聞けばいいじゃない。牛丸さんから話を聞くとのは凄く大事だと思うよ。裏付けしっかりしてるし。僕なんか面白い話しか出てこない(笑)

●プロジェクトシリーズについて

プロジェクトシリーズってのはねえ…なんでやったかという、僕はプロジェクトシリーズってあんまりいい思い出がない。なぜかっていうと、あれはユーザー目線で作った商品じゃないんですよ。要するに乱売合戦が始まって、小売店さんたちが定価で売れるようにするため



当時のキッズ達を熱くさせた？カタログ。

に考えたギターだったんです。だから寄せ集めなんですよ。ひとつひとつが。こんなとか、木曾鈴木でカシュウ仕上げのとか。で、袋をつけようって言ったのは僕。そうやって付加価値つけましようって。そう、これこれ、リッケンバッカーのなんかはポールのをそのままを作ろうって。これは335のストップ・テイルピースが流行りだしたの。あれカールトンだよな？今までだったら単体で出していたヤツをひとまとめにして、しかも定価を崩さないようにして小売店さんに売ってもらうために出したの。そうそう、品薄にしたしね。

そうそう。で、このころ僕はコンポーネント・ギターを要望してたんだよ。すごい。オリジナルのグレコ以外でいわゆるコンポーネント・ギターっていうの？だったらどうかっていうのはあった。(あとで小売店がやりだしたよね)

まあ、僕らがいた時代にはこういうのは合わなかったんだよ。早かったんじゃないの。こんなコピー作ってどうすんのかな？ってずっと思ってた。コンポーネントだったらコピーでもいいと思った。たとえばカタチはフェンダーのストラトのカタチってのは非常に良くできてるしね。それから向こうで見たヤツで、シエクター以外でもコンポーネントやっていると何社かあってですね。やっぱり作りやすいんだよな。セットネックじゃないし。エフェクターとも相性いいんじゃないかって？シングルコイルのって。

●コピーモデルとオリジナルモデルについて

コピーは嫌なわけですよ。わかる？嫌なんですよ。でもコピーから抜け出せない。で、コピーから抜け出すタイミングがいくつかあったんで

すけども、やっぱそれは線香花火になっちゃう。だからそんなんでは自分の中ではコピーでも充足感がないし、オリジナルのモデルに関して僕はやったー！っていう充足感はないんだよな…。

(GOのカタログをみて) このころ辛かったねえ…。

●ラインナップを考えたのは奈良さん？」いやいや…神田だったけど…僕一人でなんか決められないよ。

●小嶋社長はさあ…オレが後にさあ、中田さんと高山さんと来てコンピューターが当時入り始めた時、何本売れたから何本仕入れて。ってやってたけど、小嶋さんは全部勘だからね

そうそう！

●全然データ見ない

そうそう。



1976年プロジェクトシリーズの広告類



●それでも全部さげちゃった時代だよな、それで社長から任されるようになったころからダブつき始めて、正確に注文しないと、そんなことやってたらあつという間に…(在庫の山)

### ●ゴダイゴについて

あ〜、ゴダイゴ、はいはい。

あのね、覚えてるのはミッキー吉野が訪ねてきてね。あ、その前から良くは来ていたんですけど…カップス辞めた後きてね。ミッキー吉野グループとかやあって、まあ、そんなんで付き合いはあったんです。アフターサービス部門のチーフだった沢田さんと仲良かった。で、ミッキーが今度バンド作りたくてアメリカから一人ベーシスト呼ぶんだけど…スティーブなんだけど、ビザとるのに身元保証人になってくれて、それで神田商會が身元保証人になってあげた。それで彼に一応給料を払った。彼カミさんだからカミさんに僕の手伝いさせた。貿易関係とか。スティーブはねえ、バンド活動やっていたんだけど、バンド組むっていうんでタケカワユキヒデが出てたんだけど、ソロじゃダメだったんで、その後ろでやってたんだよミッキー吉野グループ。ゴダイゴってやるようになってそのバンドのバックアップとかやってた。神田商會で。

●当時グレコのCMはゴダイゴがやっていたりしましたね

あれはね、スティーブと和田アキラがね、松竹の大船撮影所でやってたよね。あのコマーシャルみたいよね。

### ●富士ローランドGRについて

やりましたよ。GRは開発に沢田さんが手伝ってたね。一緒に九州、アークまで行きましたよ。九州でやってたからね、研究を。最終的に松本で。ロゴマークもやった。あんまり好

きじゃなかったけど…雰囲気がああいう雰囲気だった。なんとなくね。あんまり好きじゃない。ヘッドのデザインは元々フジゲンにあったのじゃないの？

●最初はレスポール型ので

そうそう、これはたぶん小嶋さんの意見だと思うんだけど、レスポールって人気あんだからそれでいいんじゃないの？ってそんな感じだと思うよ。僕は間違いなくこれは小嶋さんだと思う。

●小嶋さんもプレイヤーでもなんでもないよね。

そうそうそう。でもいうときは言うぞみたいな。ヴァイオリン仕上げにしようって言ったのも確か小嶋さん、プロジェクトシリーズの。昔鈴木バイオリンでこんなことしてたんだぞって。

●鈴木バイオリンご出身だったんだよね

●そのあとGOの形になったじゃないですか

そう。なんでか知らないけどね。僕もうあん時いないから。

●ローランドの社長、エーストーンの技術者なんだよね

そうそうそう梯さん。技術者っていうか始めた人。エーストーンが Hammond に買取されちゃった。それで売っちゃってローランド始めた。始めるって言った時も覚えてるよ。72年か73年だったなあ…小嶋さんが営業会議で言ってたなあ。今度こういうのやるからって。

あの、ネットで今回知ったんだけど、詳しい人いるねえ…なんでこの人こんなこと知ってるの？って。誰に聞いたんだろうって。というか、この人この系統から入ったんじゃない？ってのもあるよね。つてのは…ここまでは自分でやりましたよ。つてのは頭の中にきちんとあるのに、それが違う人がやったってことになってたらすぐ分かるじゃん？たとえば、GOなんか絶対自信あるのは、全部自分でやったつてのがある。それがこれはこうですつて違う話があった時に

## グレコのニュース

**ベースカセットが付きます。**

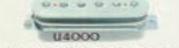
ステイプ・フォックスは、1976年7月号のグレコニュースに、ベースカセットが付きます。これはグレコのベースカセットの歴史を振り返るための企画です。ベースカセットは、グレコの歴史を振り返るための企画です。ベースカセットは、グレコの歴史を振り返るための企画です。

**ピックアップについて考えよう**

ギター用のピックアップには、大きく分けて2種類あります。それは、単音ピックアップと複音ピックアップです。単音ピックアップは、1つの音だけを拾い上げるのに適しています。複音ピックアップは、複数の音を同時に拾い上げるのに適しています。



PU100



PU4000

**グレコこのゲージができた**

グレコは、このゲージができた。グレコは、このゲージができた。グレコは、このゲージができた。

**グレコでは少くもこれだけの音がそろっています**

品番	価格	品番	価格	品番	価格
GR100	¥1,200	GR101	¥1,200	GR102	¥1,200
GR103	¥1,200	GR104	¥1,200	GR105	¥1,200
GR106	¥1,200	GR107	¥1,200	GR108	¥1,200
GR109	¥1,200	GR110	¥1,200	GR111	¥1,200
GR112	¥1,200	GR113	¥1,200	GR114	¥1,200
GR115	¥1,200	GR116	¥1,200	GR117	¥1,200
GR118	¥1,200	GR119	¥1,200	GR120	¥1,200
GR121	¥1,200	GR122	¥1,200	GR123	¥1,200
GR124	¥1,200	GR125	¥1,200	GR126	¥1,200
GR127	¥1,200	GR128	¥1,200	GR129	¥1,200
GR130	¥1,200	GR131	¥1,200	GR132	¥1,200
GR133	¥1,200	GR134	¥1,200	GR135	¥1,200
GR136	¥1,200	GR137	¥1,200	GR138	¥1,200
GR139	¥1,200	GR140	¥1,200	GR141	¥1,200
GR142	¥1,200	GR143	¥1,200	GR144	¥1,200
GR145	¥1,200	GR146	¥1,200	GR147	¥1,200
GR148	¥1,200	GR149	¥1,200	GR150	¥1,200

MUSICLIFE19767, (I) 1976年7月号 グレコニュース ステイプ・フォックスカセット, P. U. など



音色とも多彩。

**ギターシンセサイザー**

ギターシンセサイザーは、ギターとシンセサイザーの機能を兼ね備えた楽器です。音色も多彩で、演奏の幅が広がります。

**Guitar Synthesizer**

ギターシンセサイザーは、ギターとシンセサイザーの機能を兼ね備えた楽器です。音色も多彩で、演奏の幅が広がります。

…違うんじゃない？って。GOに関しては…広告だよ。もう絶対。スピードウェイって言葉をみつけたときとか…凄く嬉しかった。うん。もうこれで出来るなって。

和田アキラの商業的時なんかも、絵を描いてディレクターに説明したんだけど…こう最後はクレーンで上げて…って。

4月にもかかわらず雪が激しく降ってくる  
 こういう人たちが来るとこうなっちゃうんだよね～  
 << 私達のことです (笑)

◎77年楽器フェアで展示された現物 GO MR-6  
 へえ～。 あっ！コレ横ちゃん覚えてる？これこれ。(指板エンドに入っている★★印) これねえ…2級品。何かどっかに問題がある。あ、ゴメン！2級品って言い方はおかしいんだけど

**GR GUITAR CONTROLLER**

迅速な操作が可能なコントロールユニット



GR103



GR103

…こうやって考えて。一般ルートで販売する商品ではない。で、今思い出したのは、これ12階に展示してあったやつ。で、これを出すときに★★打ったはず。伝票上。だからショウモデルってのは当たってるかも知れない。このGOは、あのGOではない。グレコ・オリジナルだと思いますねえ。

◎これがMR600のプロトタイプだと思っています  
 言えてるかもしれないねえ。僕はこのマークでピンときた。これが明らかに神田の12階ショールームで管理してたモデル。

◎それが何で流出したの？  
 それはたぶん…決算の時に楽器屋に売ったとかじゃないかな。  
 ◎じゃあ奈良さん目にしてるギターだね  
 もちろん。僕触ってるね。このピックアップ

**GO**

GRECO GUITAR

スピードウェイの大胆さを知りたいのならば  
 ます、ドライブしてみることでGO。




個人的に凄く好きだった。

バダス…これねえ、神田の開発の人にこの間、聞かれたんだよね。なんでこのバダスにしたの？って (実際はバダスではなくてBR2020ブリッジのこと) ちょうどバダスが日本に入ってきて、ビンテージが流行りだした時で、オールドとか言って、メロディー・メーカーとか大量に日本に入ってきた。で、あれが (チューニングが) 合わないっていうんで一部改良して (BR2020を) 作った。それで当時最先端のパーツだった。それとこのノブとね。個人的には縦一列のコントロールの配置が好き。だから再生産の (最新のプロトは) それにした。

MRは、ネックジョイントに亀裂よく入んなかった？そんなのもあった。浅いから…

あと、固定資産税のマーク入ってるのもあるんじゃない？ (ヘッド裏に)



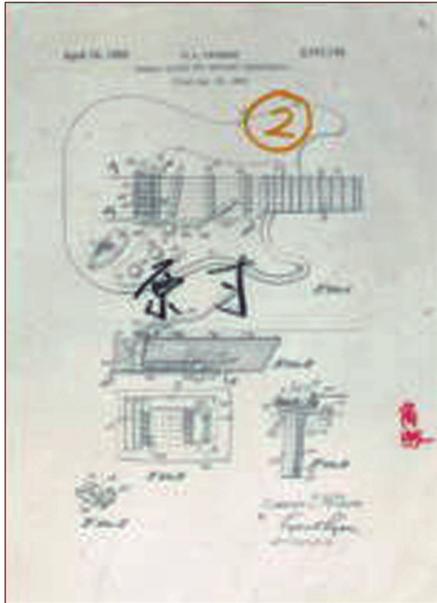
2nd Music Market Tokyo 7/25

楽器フェア情報





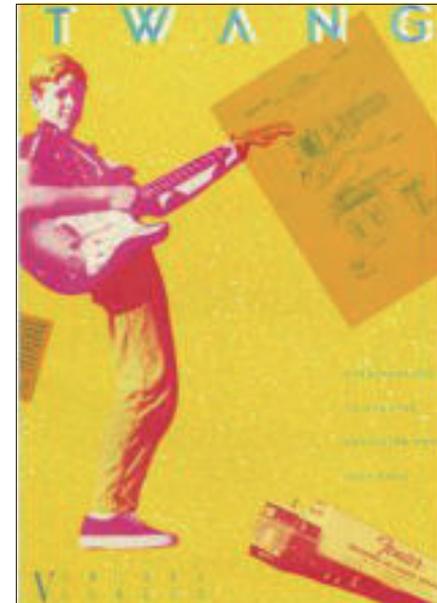
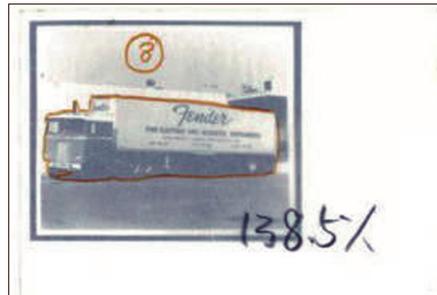
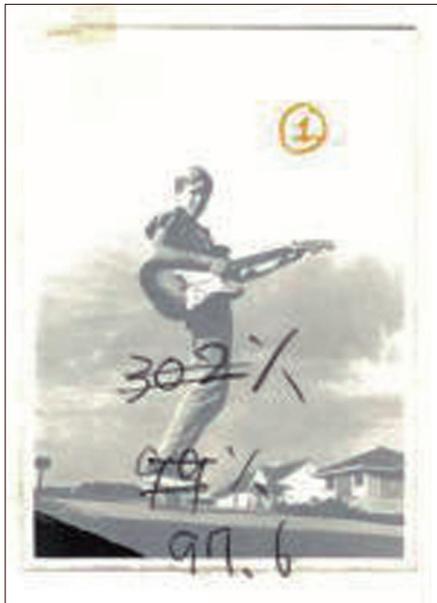




当時のカタログや雑誌の版下



Fender Japan カタログ



●楽器フェア

●グランドパレスで神田商会だけでやったことあったよね？

そう。あった。あれはねえ、フェア協会が楽器フェアやらないっていうんで神田商会単独でやるって。Player Magazine とミュージックトレード（業界誌）の桜井さんが頑張った。神田商会と関連ブランド、企業が集まって独自にやったんだよ。78年。

●全体の楽器フェアが景気が悪くて業界ではやらないっていうんで神田商会独自でグレコの発表会みたいなのやったんだよね

うん。

●それでオリジナルモデルが沢山？

そうそう。

●パーティーまでやったもんね。あのころが一番金かけてやってたね

そうだね。景気良かったね。

●グレコで一番儲けてた時

儲けてたんだろうねえ…その頃の人に影響与えてたんだねえ…。

●フェンダー日本の仕事

●ツートーンもほとんど楽器業界の仕事？

いや、半分くらいかな？あとは全然違うところだった。そっからが第二の人生。79年かな。

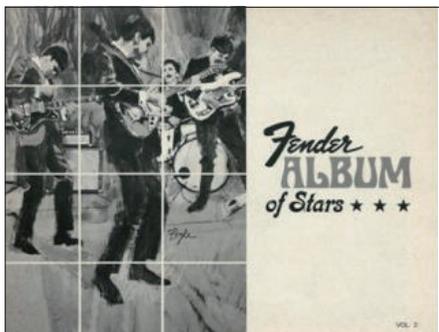
●フェンダー日本の立ち上げに関しては？

そしたら今度は神田がフェンダー日本を小嶋さんがやるって言うんで、電話かかってきて、「お前。フェンダー日本やるから来い」って。また入っていわけさ。フェンダー日本に。正直言ってすげえ心が動いた。じゃあ、部外でお手伝いしますって。実際立ち上げたの。

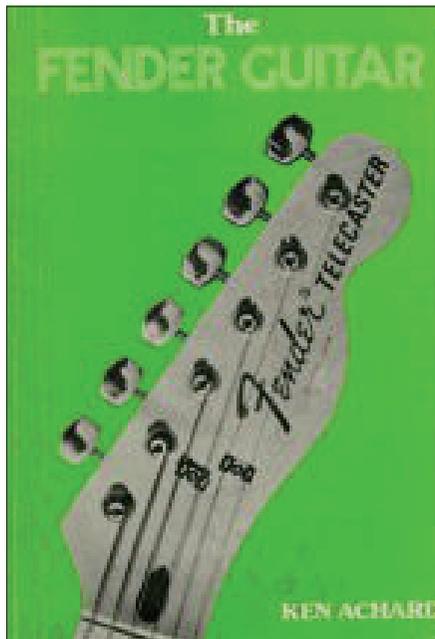
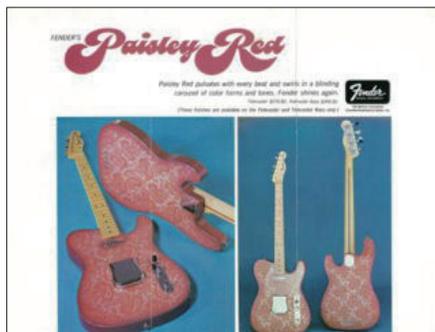
●その時の資料がさっきの？

そう。でアメリカのフェンダー（フラトン工場）行って。

●そもそも実際フェンダーが神田商会にフェン



1960年代カタログや参考資料の一部



ダージャパンを設立しないかってなったいきさつは？

いい質問するよねえ、核心にバチーって、それはミュージックマンやってたから

●その当時ってのは、グレコ以外もいっぱいコピーモデルありましたよね？フェルナンデスとかトーカイとか、やっぱり神田が作ったグレコが評価されたのが大きい？

もちろん、もちろん！

●東京の楽器フェアの時にフェンダーのヤツがフジゲンまで行ったって聞いたよ

そうそう、フジゲンのギター素晴らしかった。

●オレいたから分かるけど、それまでどうやってたらしいコピー作るかやってたのが、次の月からフェンダージャパン作るって、トーカイに出し抜かれちゃったからねえ

そう、出し抜かれちゃった。

●フェンダー系はトーカイがシェア持ち始めた時、それに対抗して、どうやってたらトーカイの上が出るかってそんな会議やってたんだよ、それでスーパーリアルシリーズとか

あ、それもう僕が辞めた後だ、そうだったんだ。スーパーリアルね、そんなのあったような気がする、今考えたらすげえことやってるよね、コピーで、

●コピーというと78年に訴えられましたよね？ギブソンから

ああ、あれはフジゲンがね、訴えられそうになって上手くまとめた。

●100万ドルだから当時のレートでいえば3億？

それは…覚えてるのは…ノーリンだよ？ノーリン・ミュージック、ノーリンの担当者が日本に市場調査に来た、神田か？フジゲンが持ってたのかな？ギブソンっていう商標を、それをあげちゃったの、それでチャラになった、それで訴訟チャラになったんでしょ？今の中国



と一緒にだよ（笑）だから返すから訴えるなど。  
●じゃあ神田だね。商標持ってたの。その後ギブソンの代理店になるじゃない」実際は富士弦楽器で取得していました。

そうそう。そんなときカタログ作ったもん。こんな分厚いの。マツモクで作ってるギターの。マツモクで作ってるエピフォンとギブソンのカタログ作った記憶がある。（間にトレーシング・ペーパーがはいってるやつ）そうそう。それ僕。  
●当時ギブソンのカタログがなんてもらえなくて、500円で売ると

覚えているのはねえ…北海道のユーザーがねえ…手紙でね、ドク・ワトソンの弾き方を教えてくださいって来たの。そんなの知るわけがない。ドク・ワトソンは知ってるよ。で、僕はたまたま、Playerに、ドク・ワトソンの英語の本があってそれをコピーして送ってあげたの。そしたら凄い喜んで。僕調子こいて全部コピーしてやったのよ。そういうことやってた。だから神田の企画室人気あった。小嶋さんには評判悪かったけど…。



（その後も機会があるたびに色々教えていただきました）

#### ●小嶋さんについて

功罪いろいろありますが、ずばり、神田商会中興の祖です。

功の方が大きい。絶大です。あげたらキリがありません。

小嶋さんと出会ってなかったら、奈良は存在してません。

権野さん、小嶋さん、池部さん。この三人がワタシを鍛えてくれました。

大師匠、大恩人。

#### ●1977年 Player 別冊「ハンドブック」発刊

ハンドブック以外にいいいいいいいい本はある。

1976から辞める1979まではいろんなことをしたので記憶がカタマリであるだけ。

具体的に思い出せない。ギターからピックまでなんです。ホントに。ギターポリッシュともやったし、弦、糸巻きや、なんやかんや…

いま、ざっと思っただけでも「アタシって、すごいですねー」って感じです。よく任せてもらえました。やらせてくれました。

#### ●GRギターシンセサイザー発表会について

ギターシンセも覚えてますよ。

デモの間に食事タイムがあって、そのときいろんな人（楽器屋の店員とかメディアとかミュージシャンとか）がいじったもんだからカッチャーさんのプリセットがおかしくなつて（事前のセッティングが崩れた）…本番でカッチャーさんが切れちゃってね。

デモの曲は今でも覚えてます。

ベース音がシーケンサーのような感じで始まって、ソレに音を重ねていくデモだった。

今思い出すとかなり稚拙。カッチャーさんはLAのスリーサンズというインストバンドのギタリストで、梯さんの友人。おっさんだったなあ。

いいのかな…若いデモンストレータつかわなくて…と思った。

自分が最初にGSを弾いたんだ！といたかったのかもね。いろんなミュージシャンからの売り込み凄かったから。（もちろんゴダイゴの浅野さん、成毛さん）

僕がウェクスラー（シカゴ）に行ったときに趣味で集めてた弦。60年代のギブソンの弦。

40年間大事に飾ってあったもの。



…ということで約3時間半に及ぶインタビュー。

その他、いろいろ頂いたり、サインをいただいたり…記念撮影をしてご自宅を後にしたのであった。

生意気な若者が、運命とも言うべき人々と出会い、20代にして神田商会時代の7年間に大きな足跡を残した。その人生の中ではたった7年という期間のことでしたが、当時のキッズ達に沢山の夢と道標を与えたばかりか、本場での経験をいち早くストレートに表現してきたことが日本の楽器・音楽業界に大きな影響を与えたと言っても過言ではない。時には逆境を受け、困難な道や葛藤もあった。それでも自分の才能を信じて進んでいく生き方。そんな道標を今でも我々に示し続けてくれている。そんな気がしてならないのです。

当時、グレコの広告をワクワクしながら眺めていたギター少年達へ。

最後に…奈良氏からいただいたお言葉を贈ります。

「ボクの人生に迷いと後悔とかは全くないんです。

道が2つに別れていたら、必ず人が歩いてない方を選びました。」



無断転載禁止



文◎TAD館長  
Special Thanks◎  
Fumiki Nara / Shoji Yokouchi / Basketboy / 2012